

稲村三伯の「ハルマ和解」完成二〇〇年記念事業

稲村三伯は宝暦八年（二七五八）、鳥取の川端三丁目で生まれた。父は松井如水という町医者である。三伯は子供の頃、

鳥取藩の医師稲村家の養子に入り、医学を学び、長崎や京都に出て修業した。そして大槻玄沢の「蘭学階梯」を読み、発憤して蘭学を学ぶ決心をする。寛政四年（一七九二）に江戸に出て、大槻玄沢の芝蘭堂に入門する。三伯はそこで大いに勉強し、芝蘭堂の四天王の一人といわれるようになったが、その当時オランダ語を訳するのに辞書がなく勉強するのに大変不便であった。そこで三伯は師の大槻玄沢と相談し、もと長崎の通辞をしていた石井庄助にオランダ語を学んだり、学友の宇田川玄真や岡田甫説などの助けを借りて、フランソワ・ハルマの蘭仏辞書を解説しながら辞書を作り始めた。

苦心さんたんの末、やっと寛政八年二月十八日に完成した。三伯は疲労のため、歯は全部抜け、頭は白髪になったという。できた辞書は約六万語からなり、三十部が作られたとされるが、蘭学を勉強する人々には大変役に立った。人々はこの辞

書を「ハルマ和解」と呼んで、その大きな辞書を写し蘭学を勉強した。

三伯のちに鳥取藩を退身し、京都で蘭学塾を開き、多くの蘭学者を養成した。この時の弟子には、後に有名な蘭学者となった人が多く、その一人である藤林泰助は、三伯と相談して「ハルマ和解」を簡略化し、説明文も付加した「訳鍵」という辞書を作った。この「訳鍵」は多くの蘭学者に利用された。三伯は京都で解剖も行い、「八譜」という解剖書も書いている。日本のオランダ語研究や蘭方は「ハルマ和解」という辞書をもとにして、さらに発展していったのである。

今年の二月十八日は、この日本最初の蘭和辞書「ハルマ和解」完成二〇〇年に当たるので、鳥取県医師会（会長、入江宏一）と稲村三伯顕彰会はその記念事業として、記念碑建立と講演会を行った。除幕式は二月十七日、鳥取市戎町の県医師会館前で行われ、講演会は同会館講堂で、「稲村三伯とハルマ和解」と題し、岡山大学名誉教授・中山沃氏が行った。式には稲村三伯の子孫、稲村俊男氏らも参列した。

稲村三伯「ハルマ和解」完成二〇〇年記念の碑除幕式

日時：平成八年二月十七（土）午後三時四〇分

場所：鳥取県医師会館前

【記念講演会】

演題：『稲村三伯とハルマ和解』

講師：岡山大学名誉教授 中山沃 先生

鳥取市内の稲村三伯関係遺跡

一「稲村三伯先生 生誕之地」石碑

鳥取市川端三丁目二六番地 滝本塗装店前

三伯は、宝暦八年（一七五八年）、川端三丁目の松井如水という町医者の子として生まれた。この生誕地の碑は昭和二十七年の鳥取大火後、屋敷跡地が宅地化され不分明となったため、昭和三十一年一月、三伯を顕彰する人々（代表・川上貞夫）によって町内の稲荷神社の前に建てられた。しかし、平成六年六月、石碑は同町内会の都合により滝本塗装店前に移された。

二「稲村三伯顕彰碑」

鳥取市本町一丁目二〇番地 遷喬小学校前庭



「ハルマ和解」完成200年の記念の碑

ズレリーフ像は山本兼文の作で、その側に香川景樹の歌「いく葉 くすしき種のひとくさ を 豊あし原にまきし人これ」（川上貞夫筆）が彫られている。

三 稲村三伯「ハルマ和解」完成二〇〇年記念の碑

鳥取市戎町三一七番地 鳥取県医師会館前

平成八年二月十七日、鳥取県医師会（会長・入江宏一）と稲村三伯顕彰会は、三伯が寛政八年（一七九六年）二月十八日、我が国最初の蘭和辞書である「ハルマ和解」を完成したその二〇〇年を記念し建立された。題字は入江宏一による。

（稲村三伯顕彰会代表 森 納）

蛭田玄仙先生顕彰碑建立及び生誕二百五十年祭の記

所在…平成七年十二月二十四日、福島県東白川郡鮫川村渡瀬

蛭田流産科の開祖東翁蛭田玄仙（克明）が江戸時代の産科学の向上発展に貢献した業績が本学会員二宮陸雄氏の『蛭田玄仙とその産科』（平成五年）刊行によって出生地福島県東白川郡鮫川村に強烈な文化的衝撃を与え、全村を挙げての顕彰事業が企画された。

すでに吉田富三記念館の設立に尽力された隣村（石川郡浅川町）の富永健福島県医師会理事・富永国比古会員の尊父が世話人となり、平成七年七月三十一日、産科医蛭田玄仙顕彰事業打合せ開催同年八月、日本母性保護産婦人科医会、福島県医師会、日本医史学会の協力を得、九月三十一日、芳賀文雄鮫川村長を委員長とする「産科医蛭田玄仙顕彰事業実行委員会」が結成された。

二宮陸雄氏が顕彰碑建立基金用として寄贈された著書一五